

## ポーランドで政権交代か（543号）

2023年 11月 石館

ポーランドで10月15日、総選挙が行われ、右派の与党が第一党になったが、単独では過半数を確保できなかった。一方野党側がまとまれば過半数を超えるため8年ぶりに政権が交代する可能性が出てきた。



右派の与党“法と正義”（PIS）の得票率は35%で第一党の座を維持したものの過半数は確保できず、EUの大統領を務めたトウスク元首相率いる中道の野党連合“市民連立”（KO）が30%で第二党につけ、他の野党勢力と合わせると過半数を超えることから勝利を主張している。

大統領は、第1党となった政党に組閣を命じる見通しで、まずは与党“法と正義”が連立協議を主導することになるとみられるが、仮に PIS が18議席を獲得した極右野党“同盟”と連立を組んだとしても、過半数に届かない。

一方トウスク元首相の率いる KO が、中道の“第3の道”及び“新左派”と合わせて248議席となり、野党勢力が多数派を形成できる見込み。ドウダ大統領は第一党になった P I S のモラビエツキ現首相に政権樹立を一任する予定だ。しかし新首相は、任命の日から14日以内に活動計画を国民議会に提出し、信任投票を得なければならない。信任投票はおそらく野党連合に否決され、結果として現野党が政権を樹立することになるだろう。

ポーランドの与党 PIS はハンガリーと並んで、EU と司法改革やメディアへの介入を巡り対立してきたが、トウスク氏が返り咲けば EU との関係は大きく変わると見られている。また、ポーランドは隣国ウクライナへの兵器供与を積極的に進めるなど、支援で重要な役割を果たしてきた。

しかし最近、ウクライナ産農産物に対する独自の禁輸措置に踏み切るなど、兵器の供与に対しても消極的姿勢を示し、関係がぎくしゃくしてきていた。もし政権が交代したら両国関係が安定に向かうか注目される。



首都ワルシャワの広場

ではポーランドはどんな国だろうか。

ポーランドはヨーロッパの中心に位置し、ショパンの故郷。イギリスと同様ユーロでなく独自の通貨を採用しているヨーロッパの中では少数派の国でもある。北はバルト海に面し、西はドイツ、南はチェコとスロバキア、東はウクライナ、ベラルーシ、北東はロシア（カリーニングラード）に面している。

ポーランドはポーランド語で“ポルスカ”。ポルスカは平原を意味し、国土の大半は平原になっている。気候は夏の暑い日は30度を超えるが、温度は低く爽やかで過ごしやすい。冬は5度からマイナス5度程度でそんなに寒くはない。

1795年、ポーランド国家が消滅し、帝政ロシアの支配下に置かれていた中、ポーランドの人々の心は自国を取り戻したいとの思いが強くなった。フランス革命の影響を受け、1830年11月ワルシャワでポーランドの反乱が起きたが、帝政ロシア軍に制圧され、革命は失敗に終わった。この時の挫折や怒りからショパンが作った曲が、有名な“革命”である。

その後もロシアによるポーランド抑圧はしばらく続いた。ポーランドの欧州への復帰は第二次世界大戦後、1990年NATO加盟、2004年にEU加盟を経てようやく実現した。ロシアに対する敵愾心と警戒心は長い抑圧の年月の中で消えることは無く、当初のウクライナに対するEUの中での突出した支援はこの歴史が背景にある。

今回8年ぶりに政権交代になりそうだが、“市民連立”を率い、再び首相になる可能性の高いトウスク元首相はどんな人物であろうか

**ドナルド・トウスク**  
**Donald Tusk**



2019年のトウスク

1957年生まれ66歳

1980年グダニスク大学卒の文学博士。学生時代から独立自主管理労働組合“連帯”運動に参加、若手のホープとして頭角を現した。

1989年の民主化後に本格的に政界入りした。2001年には“連帯”と中道右派の人々と共に新党“市民プラットフォーム(PO)”を結成。その際トウスクは中心的な役割を果たし、2003年党首に就

任。2005年の総選挙で市民プラットフォームは政権獲得を目指したものの右派政党“法と正義(PIS)”に及ばず野党第一党にとどまった。

2007年10月に行われた下院の総選挙で、市民プラットフォームは上下両院で首相カチンスキ率いる“法と正義”に勝利を収め最大議席を獲得した。中道政党“農民党”と連立を組み連立与党を構成することになり、トウスクは11月首相に就任した。

2011年に実施された総選挙で、与党市民プラットフォームは第一党を維持し下院の過半数を制した。勝利の背景には好調な経済と安定した社会状況の下、政権維持を望む国民の支持があった。ここに第二次トウスク内閣が発足した。

トウスクは2014年8月に行われた欧州理事会の非公式会合でEU大統領に内定され、ヨーロッパの代表として国際政治の舞台に登場することになった。トウスクの大統領選出には、トウスクと親しく当時はヨーロッパで圧倒的な存在感のあったドイツのメルケル首相の強力な支持があったからだ。

トウスクはポーランドにおいて、国民から最も信頼されている政治家の一人である。またサッカーの熱狂的ファンで観戦もするし自らプレイもする。ポーランド国会の有志でのサッカーの試合に出場しプレイに熱中し議会の法案の採決をすっぽかしたこともある。



ワルシャワとクラクフで音楽と歴史満喫！ポ

中央の高層建築はワルシャワにあるスターリンによって建てられた文化宮殿である。

小生もこの建物の中に入ったことがある。これはいわゆるスターリング様式と言われる建物で、似たような建物がモスクワにも数多くある。

1955年に完成した当時、ヨシフ・スターリン記念文化科学宮殿と名付けられたこの建物は、42階建て。第2次世界大戦中のナチスドイツによる占領支配で、ほとんどの建物が破壊され荒廃した街の中央に建てられた。

旧ソ連で30年以上権力の座に君臨したスターリンの命を受けて建築された高さ230メートルの文化宮殿は今まで議論を醸しだしてきた。その威厳ある姿から、記念建造物として指定すべきだと声が上がる中、共産主義政権が崩壊し、西側諸国の一員になった時倒壊すべきだったとの反論も出ている。

最近スロバキアでの議会選挙で親ロシア派が第一党になり、ウクライナへの武器の支援をやめた。EUが一枚岩でウクライナを支援していたのに風穴があいた。スロバキアの方角転換はEUにとって痛手ではあるが、その影響は軽微であろう。ポーランドが親口になることは考えられないが、もしポーランドがウクライナ支援に消極的になったらその影響は計り知れない。その意味からトウスクの政権が出来ることはウクライナにとってもEUにとっても朗報であろう。

P.S

結局13日新議会が招集され、下院で過半数の議席を獲得した親欧州連合の野党勢力が政権を樹立し、同国の外交政策はEUとの協調路線に回帰する見通しとなった。

